

# 災害時のごみ排出 模擬訓練等の取組

## 徳島県阿波市

- 人口※ 34,713 人
- 自治会加入率 55%
- 実施時期 令和 4 年度

※令和 6 年 12 月 10 日時点自治体ホームページ掲載情報

## 取組むことになったきっかけ

阿波市は、令和 4 年度環境省中国四国地方環境事務所「災害廃棄物処理に関する仮置場設置運営モデル業務」の一環として、中央広域環境施設組合、吉野川市、板野町、上板町と共に、災害時のごみ排出模擬訓練等を企画実施しました。災害時の片付けごみの分別について、住民へ周知啓発を図ること、また、職員が仮置場設置・運営の方法や手順を習得し、資機材等の事前準備を理解することを目的としています。

## 取組内容

阿波市の協定先でもある民間企業の敷地内を会場として、令和 4 年 11 月 17 日に、自治体職員、徳島県産業資源循環協会、阿波市婦人団体連合会ら約 150 名が仮置場実地訓練に参加しました。阿波市婦人団体連合会は、阿波市合併前の旧 4 町にそれぞれ役員を配置し、会員がいます。そのため、阿波市内の地域性による偏りがないことに加えて、市の「資源ごみ（雑紙のリサイクル）」に関する実証実験にも協力しています。そのため、阿波市が同団体に参加を依頼し、承諾を得て取組が実施されました。

### 【午前の部（設置訓練）】

時間	テーマ	概要
10:00	主催者挨拶・事前説明等	・開会のあいさつ ・本日の訓練の進め方の概要説明
10:20	仮置場候補地における仮置場の設置訓練	・事前に作成したレイアウト図を用いて仮置場を設営（資機材設置、各箇所の受付・誘導人員等配置の決定）
11:20	振り返りシート記入	・仮置場設置訓練を通じて気が付いた点を振り返りシートに記入
11:30	昼休み	・昼休み

訓練実施にあたり、住民に向けた災害ごみ分別の周知のため「分けたら早い！ワケハヤ術」のチラシを作成しました。わかりやすいタイトルと共に、生活ごみと災害ごみの分別に絞った情報、漢字にはふりがなを付ける等、読みやすさの点で配慮されています。チラシは、市の広報誌、ホームページ、ごみ分別アプリに掲載されています。

### 【午後の部（受け入れ訓練と重機実働訓練）】

時間	テーマ	概要
12:30	住民への事前説明等	・廃棄物を持参していただいた住民に対して、注意事項、受付、進入路、荷下ろし、退場の流れ、を説明
13:00	開会式	・開会のあいさつ ・本日の訓練の進め方の概要説明
13:15	受け入れ訓練	・午前の部：仮置場設置訓練で決定した誘導人員等配置にて受け入れ準備の実施 ・受け入れ準備完了後、仮置場車両動線から仮置場会場へ、見学者を誘導しながら訓練状況を説明。 ・見学者の移動が完了した後に、婦人団体による廃棄物の持ち込みを開始。
14:30	仮置場候補地における重機実働訓練	・重機（バックホウ、アームロール）による仮置場内廃棄物の処理に関するデモンストレーション
15:00	有識者講評・閉会挨拶	・有識者からの講評 ・閉会のあいさつ
15:25	振り返りシート記入	・振り返りシートの記入・提出
15:30		解散

### 設置訓練

事前に準備された資機材（コーン、ブルーシート、看板、受付、鉄板等）を使用し、事前に職員と徳島県産業資源循環協会が相談したレイアウト図（案）をもとに、訓練参加者全員による設置訓練が行われました。

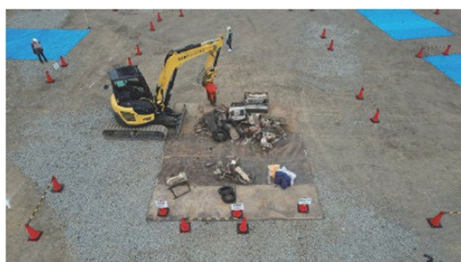


仮置場の動線がわかる案内

粗分別実働訓練は、仮置場内鉄板の上にあらかじめ模擬廃棄物を設置しておき、重機を用いて実施されました。

搬出実働訓練は、受け入れ訓練で持ち込まれた廃棄物をコンテナに入れておき、そのコンテナの1台をアームロール車に積み込んで実施されました。

■ 予算：（中国四国地方環境事務所モデル業務のため）50,000 円



粗分別作業



搬出作業

### 受け入れ訓練

婦人団体の協力のもと、各家庭の退蔵品を各自の車両で持ち込み、訓練が実施されました。災害ごみが積まれた17台の車両は、まず、一次受付で住民の氏名・住所の確認と積み荷内容のチェックが行われました。単品積載車両は単品車両動線に、混載車両は別の二次受付へと誘導されました。仮置場内での荷下ろしについては、訓練時の危険回避のため、産業資源循環協会によって行われました。



受付での確認

### 自治体の声

参加した住民は、マスコミの取材に対して、「分別して持ち込まなければ渋滞を招いて周囲に迷惑を掛けてしまうことが分かった」とコメントされており、今回の実地訓練における目的が達成できました。

仮置場を本当に開設できるのか、やはり不安は残ります。モデル事業の後、訓練は実施できていないため、住民の記憶や関心が薄れていくことが懸念されています。訓練等を踏まえて、本当に実践できるよう災害廃棄物処理計画に常に見直しをする必要があり、令和6年4月に計画改定が行われました。

